

3.8



クモ類



ナガコガネグモ

(文・図・写真：壬生 英文、佐川 浩一)

庭の樹木や家の軒先・屋内、屋外の草むら・水路・ガードレールなど、クモは身近な環境のあらゆる所に生息していることがわかります。クモは大きな網を張る種類、草木の上を徘徊する種類、田んぼや草むらに網を張ったり徘徊したりする種類、石垣の隙間に網を張る種類など多種多様で、生活圏の広さと生活様式の豊富さには驚かされます。

クモが生活様式を広げていったのは、獲物を捕まえるための網、住居や卵を守るための網、移動に使う糸など生活に糸を巧みに利用することによって繁栄してきたといえます。

クモは虫などを餌にしています。クモが多く見られるのは虫など小動物がいる季節です。それは植物が生育する季節と重なります。しかし、クモはより大型の動物の餌となります。したがって、クモは食物連鎖の中間に位置づけられますから、クモが多く生息しているということは、豊かな生態系があるということにつながります。



高森町のクモ類概要

今回の調査は、天竜川沿いの海拔 410 m から本高森山の 1,890 m まで東向きの傾斜地を形成する高森町に生息するクモを確認するため、2016 年から 2019 年にかけて、高森町内をまわりながら、主に見つけ採り法、たたきおとし法によって採取しました。種の同定は後日室内にて双眼実体顕微鏡で行い、エタノール標本保存をしました。

高森町のクモ類 確認種概要

科	種数	科	種数	科	種数
ジグモ科	1	チリグモ科	1	カニグモ科	8
ヒメグモ科	4	ウズグモ科	1	コマチグモ科	2
コガネグモ科	11	タナグモ科	3	エビグモ科	2
アシナガグモ科	8	アシダカグモ科	1	ハエトリグモ科	5
サラグモ科	5	コモリグモ科	3	合計 14 科	55

その結果、町内で 14 科 55 種のクモ類を確認しました。確認した科と種数の概要は表のとおりです。

種名や採集場所及び生息環境などの詳細は目録にまとめました。採集したクモは成体ばかりでなく亜成体、幼体が多く含まれていますが、種の同定が難しいため幼体は除いてあります。

採集地が多いオオヒメグモ、ジョロウグモ、ナガコガネグモなどは、大きな網を張る大型のクモのため、目につきやすい種類です。逆に、採集地が少ないウズグモ、アリグモなどは、小型であったり、徘徊性であったりして見つけにくいことや、採集しても種の同定が難しかったりするためです。クモ全体の約半数は、徘徊性のクモであるにもかかわらず、造網性のクモに対して種数が少なくなっています。これは、見つけにくく、採集が難しいためです。今回の調査では、上段道路沿いの電気柵より上部山林の調査は出来ていない所が多く、山林や亜高山性のクモの確認種類は極めて少なくなっています。

多くの動植物がそうであるように、クモにおいてもその環境の違いにより、生息する種類が異なってきます。次のページからは、人家を中心に見られるもの、屋外を中心に見られるもの、水田や耕作地を中心にみられるものなど、それぞれの環境で見られる代表的なクモを紹介したいと思います。



人家を中心に見られるクモ

イエオニグモ

体長は雌9～12mm、雄4～5mmの全体的に灰色がかった褐色のクモで、人家の軒下や窓の縁に円網を張って生活しています。本州以南に生息し7月から10月下旬ごろまで見ることができます。このクモの特徴として、昼間は軒下の物陰や柱の隅などにじっと身をよせて隠れており、薄暗くなるころ、活動し始めます。一晩中、巣の中心で獲物がかかるのを待っていますが、朝方になって周りが明るくなると、巣の一部をたたみ(崩し)物陰へ移動します。再び夕方薄暗くなると前日たたんだ巣を修復した後に巣の中央で獲物がかかるのを待つ生活を続けます。ごくまれに巣をたたまない個体も見られます。



獲物を待つイエオニグモ



物陰に隠れている
イエオニグモ

ジグモ

体長は雌17～20mm、雄12～15mm。全体的に焦げ茶色がかかったクモで、外見上は上顎が非常に大きいのが特徴です。日本全土に生息し年間通して確認することができます。人家の壁、土台石、木の根本などに、地中から地上にかけて筒状の巣を作り、その中で生活しています。地表に出ている巣の上を獲物を通った時、巣の中から大きな牙で噛みつき、巣の中へ獲物を取り込みます。

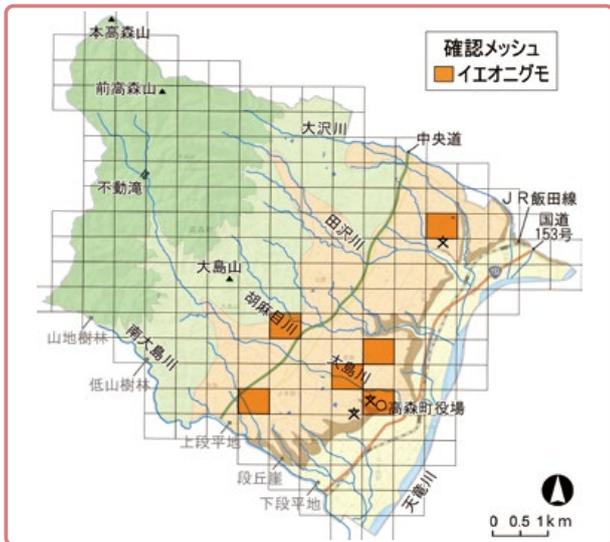
ジグモを巣から取り出し、体を「くの字」に曲げてやると、大きな上顎の牙で腹部を切り裂くので「ハラキリグモ」と言って筆者の子どものころには遊んだことがあります。



ジグモ



ジグモの巣(地上部)



イエオニグモの確認メッシュ



ジグモの確認メッシュ

■ ヒラタグモ

建物の壁や塀の表面に平たい円盤状の直径2～3cmの白い袋が張り付いているのを見かけることがあります。袋を強くつついたり、袋をはがしたりすると、中からクモが逃げだしていきます。クモが潜んでいた袋を調べてみると、二枚貝のように、上下2枚の膜できていて、クモの住みかとしています。さらに、この袋状の住みかから放射状に長い糸が、たこ足を広げたように張られています。この糸は、獲物を捕まえるためのもので、獲物が糸に触れるとその震動が巣に伝わり、巣の中に潜んでいたクモが素早く飛び出し獲物に飛びついて捕らえます。したがって、暗闇でも獲物を捕らえることができます。このクモの体の特徴は扁平なことで、腹部の背面の大きな菱形の黒い斑紋です。



ヒラタグモ

ヒラタグモの巣

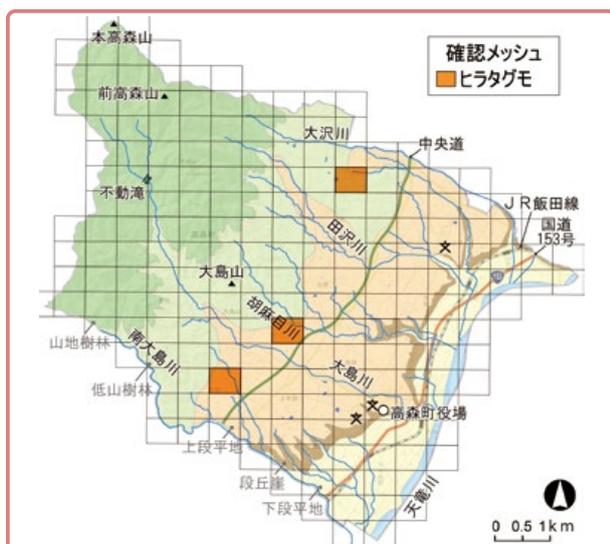
■ オオヒメグモ

軒下などに立体的で複雑な網を張り腹部が丸く、網に卵のう（中に卵の詰まった袋）数個を吊しているの目につきやすいクモです。張り巡らされた糸の先端付近に粘球が付けてあり、巣に近づいてくる虫はこれにくっつき、糸の震動を感知したクモは虫に糸を投げかけて引き上げるので、自分の体より大きな虫を餌にすることができます。

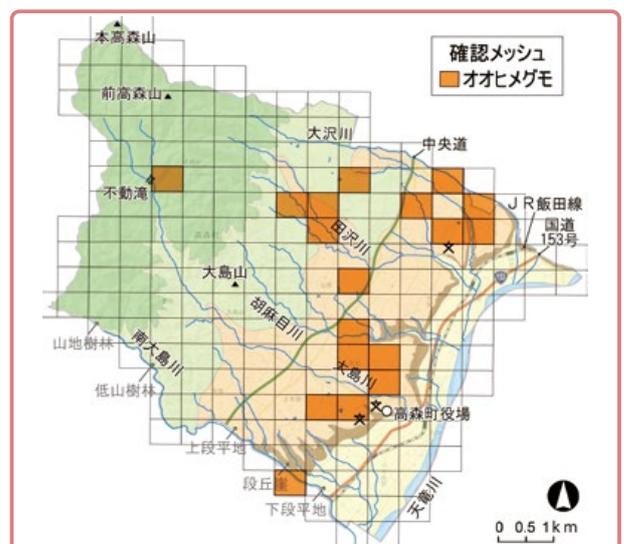
ちなみに、クモは口でかみ砕いて餌を食べるのではなく、牙を獲物に突き刺し、そこから消化液を注入し、消化された液を吸収することによって栄養を取り入れています。したがって、体の内部が空洞になった虫の死骸をクモの巣や巣の下の地面に見ることができます。



オオヒメグモ



ヒラタグモの確認メッシュ



オオヒメグモの確認メッシュ



屋外に見られるクモ

ジョロウグモ

初夏のころから見かける大型のクモです。特に秋になると、産卵に向けて腹部が大きく膨らみ、黄色や赤の模様が目立つため、よく目につくクモです。巣は木の枝や道路標識、電柱・金網などに大きな馬蹄形の網を張り、網の中に潜んで獲物が網に掛かるのを待ちます。巣の中をよく見ると、小さなクモを数匹見ることができます。これは雄のジョロウグモで、雌と交尾しようと潜んでいます。雄の体長は雌に比べて大変小さく、一見別の種類のクモかと思うほどです。



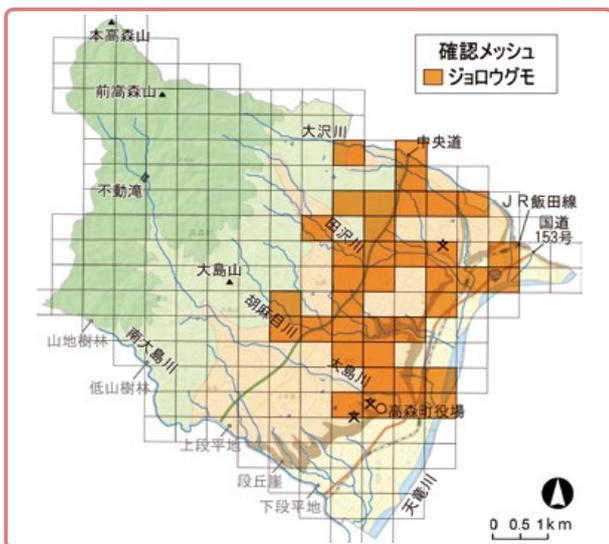
ジョロウグモ

ネコハエトリ

低木の枝葉や草の中に見られ、体長1 cm 近くある比較的大型のクモです。ハエトリグモ科のクモは網を張らずに走りまわる徘徊性のクモで、獲物を見つけるとジャンプして巧みに飛びついたり、危険を感じるとジャンプして逃げたりするなど運動能力の高いクモです。そのため、体に比べて歩脚は短く太く、眼が発達しています。特に、頭胸部の前面には車のヘッドライトのような眼がついていて、頭胸部を左右に動かしながら獲物や周囲の状況を観察しています。また、歩脚の先端に毛の束があることで垂直の壁やガラス、天井にも止まったり走りまわったりすることができます。ネコハエトリは頭胸部にU字形に灰色の毛が生えているのが特徴です。地方によっては、本種を闘わせる遊びがあり、特に神奈川県や千葉県では有名です。



ネコハエトリ

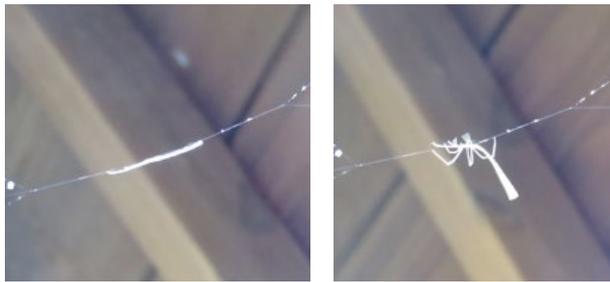


ジョロウグモの確認メッシュ



ネコハエトリの確認メッシュ

オナガグモ



擬態するオナガグモ

オナガグモ

写真左はクモの糸に松葉が掛かっているように見えます。糸に触れてみると、松葉だと思っていたものが動き出しました。オナガグモというクモが隠れていました。文字どおり、尾（腹部）が長いことから名付けられたものです。体色は茶褐色、あるいは緑色のクモで1～2本の糸を張っただけの単純な網で生活しています。造網性のクモの巣は飛んできた虫が網に触れると貼りつくように粘性がありますが、このクモの網に粘性はありません。このクモの獲物のほとんどはクモです。クモは歩く時に糸（しおり糸）を引いて移動する性質があります。オナガグモの糸を「しおり糸」と勘違いして伝っていったクモがオナガグモに捕獲されるのです。

ゴミグモ

体長は雌 12～15mm、雄 7～8mm。庭の木の枝や野外の林などに普通に見られるクモです。地面に対して垂直に円網の巣を張りますが、他のクモと違い、巣の中心部分に縦に細長くゴミ（食べかす、脱皮がらなど）を集め、その中で獲物がかかるのを待っています。クモ自身の体もとげとげしくゴミと同化して、よく見ないとどこにいるのか分かりません。卵のうもゴミの中に産みつけており、見た目には分からない状態になっています。ゴミグモは体の成長とともに網が大きくなりゴミの量も多くなっていきます。天敵から身を守る手段として、このような擬態をしているものと考えられます。クモの体は黒褐色で腹部は長く、後端部に突起があるのが特徴です。



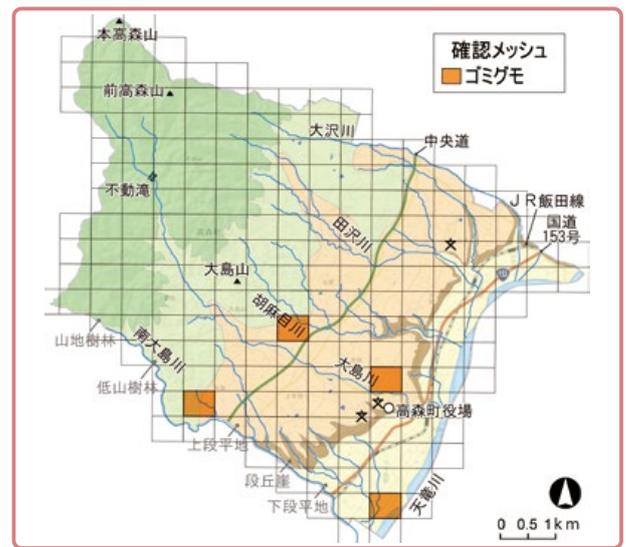
ゴミの中に擬態している
ゴミグモ



左の写真の中にいた
ゴミグモ



オナガグモの確認メッシュ



ゴミグモの確認メッシュ

3. 高森町の動物

■ コアシダカグモ

体長は雌 20～25mm、雄 15～20mm で、脚を広げると 100mm 近くになる大型のクモです。主に樹林内や洞窟に生息し、昆虫類を捕食している夜行性で徘徊性のクモです。しかし、屋内にも生息しており、写真の個体は屋内で確認されたものです。高森町にはこの種と非常に似ているアシダカグモも生息していると考えられます（今回の調査では確認できませんでしたが、過去に下伊那で確認されています）。アシダカグモは、コアシダカグモより一回り大きく、主に屋内に生息しており、ゴキブリなどを捕食しています。コアシダカグモが北海道を除く日本全土に生息しているのに対して、アシダカグモは関東地方の太平洋側以西に生息する南方系のクモです。



コアシダカグモ 雌

■ カバキコマチグモ

体長は雌 10～12mm、雄 9～10mm。日本に生息する在来種の毒グモです。その毒は非常に強く、マムシの毒より強いと言われていますが、クモ自体それほど大きくなく、噛まれた場合でも体内に入る毒の量はわずかなため、生命に関わるようなことにはなりません。患部が腫れ上がり、3日から1週間ぐらい痛みを伴います。この種と近縁種のヤマトコマチグモも毒を持つクモですが、外観では区別ができないぐらいよく似たクモです。両種ともイネ科のススキやヨシの葉をちまき状に巻いて巣を作り、そこで卵を産みます。カバキコマチグモの子グモは一回目の脱皮を行った後、母グモを食べつくします。その後2回目の脱皮を行い、外界へ出て行くというドラマチックな生活史をもったクモです。

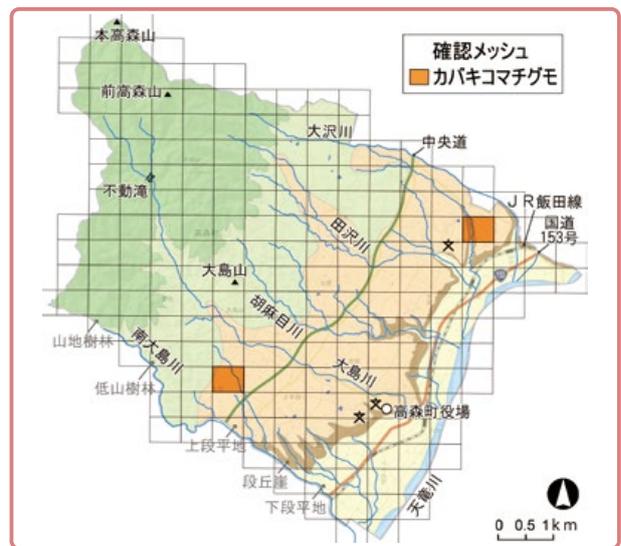
両種とも高森町で確認されているので、巣を見つけても、いたずらに巣を壊して指でつかむようなことはしないよう気をつけてください。



カバキコマチグモ



コアシダカグモの確認メッシュ



カバキコマチグモの確認メッシュ



水田・耕作地に見られるクモ

ナガコガネグモ

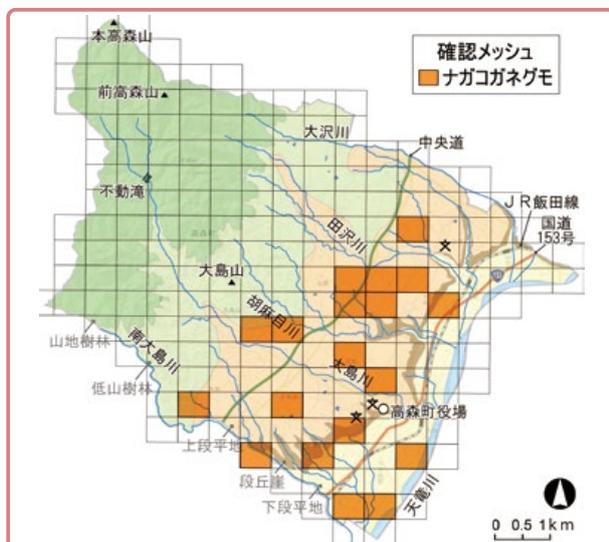
水田の稲の間や水路を挟んだ草の間のような比較的低いところに垂直円網を張り、中央に直線上の白い帯を付けているのが特徴です。白い帯は「隠れ帯」とよばれ、幼体の時は不規則な円盤状をしていますが、成体に近づくと縦に連ねたジグザグのリボン状になります。

クモは網の中央に下向きに静止して獲物が網に掛かるのを待っています。人が近づき網を張ったスキや、網に触れると網の中央で自ら網を前後に大きく揺らし威嚇するような行動をとります。

体長は雌で2～2.2cmあり、頭胸部背面は白色の毛に覆われ美しく、腹部は大きく、黒・黄・白の広い帯が交互にあり目立つクモです。



ナガコガネグモ



ナガコガネグモの確認メッシュ

ウツキコモリグモ

体長は雌7～10mm、雄6～8mm。平地、山野、畑など最も多く普通に見られる徘徊性のコモリグモです。雌は白っぽい卵のうを腹部の後ろにつけて活動し、卵から子グモがふ化してもしばらくの間、腹部の上に載せて生活することから、コモリグモの名前が付けられています。地面を機敏に動き回り、小動物を捕獲して餌にしています。

コモリグモの特徴は母性行動です。4、5月ごろになると畑や草むらを尻に丸い玉をつけて行動しています。この丸い玉を「卵のう」といい、中に卵が詰まっています。写真右の別のコモリグモは、卵のうを尻につけていない代わりに腹部背面に子グモや子グモの脱皮した殻を背負っています。コモリグモは、卵のうちには常に尻につけて行動し、卵からふ化した子グモを背負いながら子グモが立ち立ちできるまで守っています。このように卵の時から5週間近くも子どもを守り続ける行動は子守(コモリ)グモと呼ぶにふさわしいクモです。



卵のうを付けて活動する
ウツキコモリグモ



子グモを背負う
コモリグモ



ウツキコモリグモの確認メッシュ

コラム クモの巣の形状

クモは餌の採り方で大きく分けると、造網性のクモと徘徊性のクモに分けられます。造網性のクモは巣を作り、そこにかかる獲物を餌として生活していますが、クモの種類によって、その巣の形状も違ってきます。巣の形状は特殊なものを除いて代表的な形として、円網、棚網、不規則網、皿網、すじ網などがあります。

- ①円網・・・中心から放射状に引かれた糸に同心円状に細かく糸が張られている。
(コガネグモ、アシナガグモなど)



ギンメッキゴミグモ



ナガコガネグモ

- ②棚網・・・ロート状の巣で、巣の中心から前方へ向けて放射状に網がのびている。
(タナグモ)



タナグモ



タナグモ

- ③不規則網・・・全体的に巣の構造がはっきりせず、立体的に粗く糸を張り合わせている。
(ヒメグモ、ユウレイグモなど)



オオヒメグモ



オオヒメグモ

④皿網・・・糸を縦横に重ねた薄い膜状の皿のような形をしている。(サラグモ)



サラグモ科のクモ

⑤すじ網・・・数本の糸を張っただけの巣。(オナガグモ、マネキグモ)



オナガグモ

コラム 特定外来生物 セアカゴケグモが長野県で初めて発見される

長野県は2019（令和元）年8月9日、飯田市北方で毒グモのセアカゴケグモが見つかったと発表しました。飯田市環境課によると、8日午前10時10分ごろ、北方の側溝を掃除していた住民が発見して市に報告しました。セアカゴケグモは1995年に大阪府で発見されました。外国貨物に付着して港湾地域に侵入したと考えられています。それ以降、青森、秋田、長野を除く44都道府県で既に確認されました。近くでは4年前に岐阜県の各務原市で確認されており、長野県への侵入も心配されていましたが、今回の発見となりました。

また、12月には松川町でも他県から送られてきた段ボール箱の中に、雌の成体1匹と雌の幼体20匹が確認されました。今後、人や物資の移動で県内へ広がることや、青森、秋田にも侵入する可能性は否定できません。関心を持って見ていくことが必要です。

運悪くこのクモにかまれると、痛みや腫れなどが生じるといいます。速やかに医療機関へ行き、手当を受けることが必要です。



2019年8月10日 信濃毎日新聞

3. 高森町の動物

● 目録

科名	種名		備考 雌雄：確認地名（メッシュ） 確認環境（確認年）	
	和名	学名		
ジグモ	ジグモ	<i>Atypus karschi</i> (Dönitz 1887)	♀：天白公園 (5E1) 地中 (2016)	
ヒメグモ	オナガグモ	<i>Ariamnes cylindrogaster</i> (Simon 1889)	♀：胡麻目大橋 (7E3) ガードレール (2016)、♀垂：新田 (6H4) 樹間 (2017)	
	ヒシガタグモ	<i>Episinus affinis</i> (Bösenberg & Strand 1906)	♀：登山道 (5J1) 樹林帯草木 2016	
	ニホンヒメグモ	<i>Nihonhimea japonica</i> (Bösenberg & Strand 1906)	♀：林道二又沢線 (5G2) 樹間 (2016)・吉田区民会館 (7E1) 建物 (2016)・吉田旧国道 (7D4) ガードレール (2016)・町民グラウンド (6D2) 樹間 (2016)・松源寺 (6C3) 建物 (2017)・伊勢神社 (5D4) 樹間 (2017)	
オオヒメグモ	<i>Parasteatoda tepidariorum</i> (C. L. Koch 1841)	♀：新田原 (7H2) 建物 (2016)・城山 (6E2) 建物 (2016)・光専寺 (6E2) 建物 (2016)・吉田区民会館 (7E1) 建物 (2016)・山吹公園 (8G3) 建物 (2017)・上平 (8H3) 建物 (2017)・高森南小 (6D2) 建物 (2017)・森の家 (5H2) 建物 (2018)・南大島川 (5B4) ガードレール (2016)・田沢 (6G3) 建物 (2018)・吉田原 (7D3) 建物 (2016)・千早原 (6H1) 建物 (2018)・山吹マレットゴルフ場 (6H4) 建物 (2018)、♀垂：広庭 (6E4) 建物 (2016)・出原・等		
コガネグモ	オニグモ	<i>Araneus ventricosus</i> (L. Koch 1878)	♀垂：上平 (8H2) 建物 (2017)・丸山 (8F3) ソーラーパネル (2017)	
	ナガコガネグモ	<i>Argiope bruennichi</i> (Scopoli, 1772)	♀：坂牧城址 (6B2) 草木 (2018)・工業団地 (7B1) 水路 (2018)・高森南小 (6C4) 樹間 (2018)・吉田原 (7D3) 水田 (2016)・南栄 (6F2) 水路 (2016)・大西 (5E3) 水路 (2018)・下平 (8F1) 水路 (2017)・北林 (7F4) 水路 (2017)・出原区民会館 (6F4) 草間 (2016)・共栄 (7F1) 水路 (2017)・新田 (7G4) 水路 (2017)・旬菜館 (7F3) 水路 (2017)・宮本瑠璃寺 (5E4) 水路 (2018)・洞 (6C1) 水路 (2016)・原町 (5D2) 水路 (2016)・御大の館 (4D1) 草木 (2016)・工業団地北 (7C2) 水路 (2017)、♂：南大島川 (5C1) 樹間 (2016)	
	ギンメッキゴミグモ	<i>Cyclosa argenteoalba</i> (Bos. & Str., 1906)	♀：大丸山公園 (6D2) 立看板 (2017)・牛牧浄化センター (5C4) 樹間 (2018)・あさぎり荘 (7B3) 樹間 (2018)・山吹公園 (8G3) 樹間 (2016)・東原 (7E2) 樹間 (2017)、♀垂：新田 (6H4) 樹間 (2017)・光専寺 (6E2) 樹間 (2016)、♂：山吹マレットゴルフ場 (6H4) 樹間 (2018)	
	ギンナガゴミグモ	<i>Cyclosa ginnaga</i> (Yaginuma 1959)	♀：山吹公園 (8G3) 樹間 (2017)・宮本瑠璃寺 (5E4) 水路 (2018)・天白公園 (5E1) 草木 (2016)・宮沢 (5C3) 樹間 (2016)	
	ゴミグモ	<i>Cyclosa octotuberculata</i> (Karsch 1879)	♀：吉田原 (7D3) 樹木 (2016,2019)・工業団地東 (7B1) 草木 (2017)・上段道路 (4D1) 草木 (2018)、♂：宮本瑠璃寺 (5E4) 水路 (2018)	
	アカイトリノフンダマシ	<i>Cyrtarachne yunoharuensis</i> (Strand 1918)	♀：南大島川 (7C4) 草木 (2017)	
	コガネグモダマシ	<i>Larinia argiopiformis</i> (Bösenberg & Strand 1906)	♂：宮本瑠璃寺 (5E4) 水路 (2018)	
	ドヨウオニグモ	<i>Neoscona adianta</i> (Walckenaer, 1802)	♀：安養寺 (6C2) 草木 (2017)	
	イエオニグモ	<i>Neoscona nautica</i> (L. Koch, 1875)	♀：山吹公園 (8G3) 建物 (2016)・瑠璃寺 (5E4) 樹間 (2016)・吉田区民会館 (7E1) 建物 (2017)・JA 選果場 (6D4) 建物 (2017)・旭町 (5D1) 建物 (2017)・下市田1区積善会館 (7D1) 建物 (2018)	
	ジョロウグモ	<i>Nephila clavata</i> (L. Koch, 1878)	♀：山吹公園 (8G3) 電柱 (2016)・高森荘 (9F3) 照明灯 (2016)・吉田東公園 (8D3) 樹間 (2017)・ほたるパーク (8F4) 建物 (2016)・下平 (8F1) フェンス (2017)・丸山 (8F3) ソーラーパネル (2017)・上平 (8H1) 建物 (2017)・上平 (8H2) 標識 (2017)・やすらぎ荘 (8G1) 電柱 (2016)・新田諏訪神社 (7H1) 建物 (2016)・新田原 (7H2) 樹間 (2016)・新田地区館 (7H4) 建物 (2016)・越田 (7G1) 建物 (2016)・越田集会所 (7G3) (2016)・中島 (7G2) 標識 (2016)・吉田原 (7D3) 標識 (2016)・増野 (7I2) フェンス (2016)・田沢大橋 (6G3) 電柱 (2017)・高森南小 (6D2) 建物 (2017)・正木 (6G2) 標識 (2017)・越田原 (6H2) フェンス (2017)・増野 (6I2) 標識 (2017)・新川 (6E3) 電柱 (2016)・広庭 (6E4) 建物 (2016)・南栄 (6F2) 電柱 (2016)・出原区民会館 (6F4) 樹間 (2016)・瑠璃寺 (5E4) 樹間 (2016)・高森中 (7D1) 樹間 (2018)・胡麻目川 (7E4) 電柱 (2017)・旬菜館 (7F3) 建物 (2017)・下伊那厚生病院 (8D1) 樹間 (2018)、♂♀：吉田区民会館 (7E1) (2017)・吉田旧国道 (7D4) 標識 (2017)・清東 (7D2) 建物 (2016)・城山 (6E2) 建物 (2016)・胡麻目大橋 (7E3) 標識 (2016)、♀垂：高森ドーム (5F2) 建物 (2018)・瑠璃寺 (5E4) 樹間 (2018)	
	ズグロオニグモ	<i>Yaginumia sia</i> (Strand 1906)	♀：吉田原 (7D3) 建物 (2018)	
	アシナガグモ	オオシロカネグモ	<i>Leucauge celebesiana</i> (Walckenaer 1842)	♂：間ヶ沢堤 (5D2) 水路 (2017)
		チュウガタシロカネグモ	<i>Leucauge blanda</i> (L. Koch, 1878)	♀：天白公園 (5E1) 草木 (2016)・洞 (6B3) 樹間 (2017)
コシロカネグモ		<i>Leucauge subblanda</i> (Bösenberg & Strand 1906)	♀：間ヶ沢堤 (5D2) 樹間 (2017)	
メガネドヨウグモ		<i>Metleucauge yunohamensis</i> (Bösenberg & Strand 1906)	♀：上平 (8G2) 水路 (2017)、♀垂：正木 (6G2) 水路 (2017)	
ハラビロアシナガグモ		<i>Tetragnatha extensa</i> (Linnaeus 1758)	♀：宮本瑠璃寺 (5E4) 水路 (2018)、♂：上平 (8G2) 水路 (2017)	
ヤサガタアシナガグモ		<i>Tetragnatha maxillosa</i> (Thorell, 1895)	♀：宮本瑠璃寺 (5E4) 水路 (2018)、♂：上平 (8G2) 水路 (2017)	
ミドリアシナガグモ		<i>Tetragnatha pinicola</i> (L. Koch 1870)	♀垂：吉田旧国道 (7D4) 水路 (2016)	
アシナガグモ		<i>Tetragnatha praedonia</i> (L. Koch, 1878)	♀：中島 (7G2) 水路 (2016)・下平 (8F1) 水路 (2017)・丸山 (8F3) 水路 (2017)・上平 (8H2) 水路 (2017)・市田港 (8C3) 樹間 (2017)、♂：瑠璃寺 (5E4) 池端 (2016)	

科名	種名		備考 雌雄：確認地名（メッシュ） 確認環境（確認年）	
	和名	学名		
サラゲモ	ハナサラゲモ	<i>Floronia exornata</i> (L.Koch 1878)	♀：南大島川 (5C3) 看板 (2016)	
	ハンモックサラゲモ	<i>Nerienne angulifera</i> (Schenkel 1953)	♀：不動滝 (3H4) 樹間 (2017)	
	コウシサラゲモ	<i>Nerienne clathrata</i> (Sundevall 1830)	♀：安養寺 (6C2) 樹間 (2017)	
	コシロブチサラゲモ	<i>Nerienne marginella</i> (Oi 1960)	♀：登山道 (5J1)・(4J2)・(4J3)・(4I1) 樹林帯草木 (2016)、♂：登山道 (4I1) (樹林帯草木) (2016)	
	シロブチサラゲモ	<i>Nerienne radiata</i> (Walckenaer 1842)	♀：前高森山 (3J2) 樹林帯草木 (2016)	
チリゲモ	ヒラタゲモ	<i>Uroctea compactilis</i> (L. Koch, 1878)	♀：山吹マレットゴルフ場 (6H4) 建物 (2018)、♀垂：瑠璃寺 (5E4) 建物 (2016)、♂：牛牧神社 (4D4) 建物 (2016)	
ウズグモ	ヤマウズグモ	<i>Octonoba varians</i> (Bösenberg & Strand 1906)	♀：大西 (5E3) 側溝 (2018)	
	イナズマクサグモ	<i>Agelena labyrinthica</i> (Clerck 1757)	♀：南大島川 (5C1) ガードレール (2016)	
タナグモ	クサグモ	<i>Agelena silvatica</i> (Oligier 1983)	♀：南大島川 (5C1) 樹間 (2016)	
	コクサグモ	<i>Allagelella opulenta</i> (L. Koch 1878)	♀：やすらぎ荘 (8G1) 植木 (2016)・瑠璃寺 (5E4) 植木 (2016)・清東 (7D2) 生垣 (2016)・旬菜館 (7F3) 草木 (2017)・下伊那厚生病院 (8D1) 生垣 (2017)、♀垂：吉田原 (7D3) 生垣 (2016)、♂：吉田区民会館 (7E1) 生垣 (2016)	
	アシダカグモ	<i>Sinopoda forcipata</i> (Karsch 1881)	♀：下市田 1 区積善会館 (7C4) 建物 (2018)	
コモリグモ	ウツキコモリグモ	<i>Pardosa astrigera</i> (L. Koch 1878)	♀：上平 (8H3) 草むら (2017)・下伊那厚生病院 (8D1) 草むら (2017)・下市田区民会館北 (6C2) 畑 (2017)	
	ヤマハリゲコモリグモ	<i>Pardosa brevivulva</i> (Tanaka 1975)	♀：新田グラウンド (7H3) 草むら (2017)	
	ハリゲコモリグモ	<i>Pardosa laura</i> (Karsch 1879)	♀：登山道 (5J1) 樹林帯草木 (2016)・吉田原 (7D3) 草むら (2017)・中島 (7F4) 草むら (2018)・田沢 (6C3) 草むら (2018)、♂♀：松岡城址 (6C3) 地面 (2017)、♀垂：吉田東公園 (8D3) 芝生 (2017)	
カニグモ	カラカニグモ	<i>Xysticus ephippiatus</i>	♀：上平 (8G2) 草木 (2017)	
	キハダカニグモ	<i>Bassania decorata</i> (Karsch 1879)	♂：白鬚神社 (8G4) 草木 (2017)	
	コハナグモ	<i>Diaea subdola</i> (O. P.-Cambridge, 1885)	♀：越田 (7G1) 草木 (2016)・上平 (8G2)・(8H2) 草木 (2017)、♀垂：吉田山キャンプ場 (4H1) 樹林帯草木 (2016)	
	ハナグモ	<i>Ebrechtella tricuspitata</i> (Fabricius 1775)	♀：瑠璃寺 (5E4) 草木 (2016)・城山 (6E2) 草木 (2016)・赤羽根 (6F1) 草木 (2016)・吉田原 (7D3) 草木 (2016)、♀垂：清東 (7D2) 草木 (2016)、♂：町民グラウンド (6D2) 草木 (2016)・宮沢 (5C2) 草木 (2017)	
	ワカバグモ	<i>Oxytate striatipes</i> (L. Koch, 1878)	♀：上平 (8H2) 草木 (2017)、♀垂：胡麻目大橋 (7E3) 草木 (2016)・下平 (8F1) 草木 (2016)・瑠璃寺 (5E4) 草木 (2016)・吉田原 (7D3) 草木 (2016)・光専寺 (6E2) 草木 (2016)・南大島川 (5C2) 草木 (2018)	
	チクニエビスグモ	<i>Synema chikunii</i> (Ono 1983)	♀：登山道 (4J2) 樹林帯草木 (2016)、♀垂：吉田山キャンプ場 (4H1) 樹林帯草木 (2016)・登山道 (5J1) 樹林帯草木 (2016)	
	フノジグモ	<i>Synaema globosum</i> (Fabricius, 1775)	♀：城山 (6E2) 草木 (2016)・吉田原 (7D3) 草木 (2016)・南大島川 (5C2) 草木 (2018)・工業団地東 (7B1) 草木 (2017)	
	アズマカニグモ	<i>Xysticus insulicola</i> (Bösenberg & Strand 1906)	♀：宮沢 (5C2) 草木 (2017)	
	コマチグモ	カバキコマチグモ	<i>Cheiracanthium japonicum</i> (Bösenberg & Strand 1906)	♀：上段道路 (4D4) 草木 (2019)、♀垂：白鬚神社 (8G4) 草木 (2017)
		ヤマトコマチグモ	<i>Cheiracanthium lascivum</i> (Karsch 1879)	♀：上段道路 (4D1) 草木 (2016)・上段道路 (4D3) 草木 (2018)・大丸山公園西 (6D2) 草木 (2017)・御大の館 (4D3) 草木 (2016)
エビグモ	キンイロエビグモ	<i>Philodromus auricomus</i> (L. Koch 1878)	♀垂：白鬚神社 (8G4) 草木 (2017)	
	シャコグモ	<i>Tibellus japonicus</i> (Efimik 1999)	♀垂：白鬚神社 (8G4) 草間 (2017)	
ハエトリグモ	ネコハエトリ	<i>Carrhotus xanthogramma</i> (Latreille, 1819)	♀垂：広庭 (6E4) 草木 (2016)・吉田原 (7D3) 草木 (2016)・清東 (7D2) 草木 (2017)	
	マミジロハエトリ	<i>Evarcha albaria</i> (L. Koch, 1878)	♀：上市田浄化センター (6D3) ガードレール (2017)・共経 (4E4) 草木 (2017)・共経 (4E2) 草木・高森中 (7D1) 草木 (2018)・吉田原 (7D3) 屋内 (2019)	
	オオハエトリ	<i>Marpissa milleri</i> (Peckham & Peckham 1894)	♀：下市田 1 区積善会館 (7D1) 草木 (2018)	
	アリグモ	<i>Myrmarachne japonica</i> (Karsch, 1879)	♀：上平 (8H2) 草木 (2017)、♀垂：山吹胡麻目川 (7E4) 草木 (2016)	
	ウススジハエトリ	<i>Yaginumaella striatipes</i> (Grube 1861)	♀：登山道 (5J1) 樹林帯草木 (2016)	

※希少種は、レッドリストのカテゴリーを RL (環境省/長野県) で記載した。(CR:絶滅危惧ⅠA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、N:留意種、DD:情報不足)
 ※外来種は、外来生物法によって特定外来生物に指定されているものは特定外来生物と記載し、特定外来生物以外の生態系被害防止外来種リスト記載種は、生態系被害防止外来種と記載した。

●参考・引用文献

上村史編纂委員会 (2008) 上村史自然編. 上村史刊行委員会.
 下伊那教育会生物委員会 (2001) 下伊那誌 生物編. 下伊那誌編纂委員会.
 谷川明男 (2019) 日本産クモ類目録 ver. 2019 R1.
 千国安之輔 (1989) 写真・日本クモ大図鑑. 偕成社.

